

防衛大学校本科第28期学生及び理工学研究科第19期学生 入校式における学校長式辞（昭和55年4月5日）

本日、防衛大学校本科第28期学生557名及び理工学研究科第19期学生68名の入校式典を挙行いたしますに当たり、染谷防衛政務次官^{注(1)}、佐々防衛庁参事官^{注(2)}、登張陸上幕僚副長^{注(3)}、穂積海上幕僚副長^{注(4)}、久松航空幕僚副長^{注(5)}代理、富沢統合幕僚会議事務局長^{注(6)}をはじめとする各位、更に地元横須賀市からは小佐野商工会議所会頭^{注(7)}等多数の来賓の御臨席をかたじけのうし、防衛大学校として真に光栄に存じ、ここに職員並びに在校生一同に代わり厚くお礼を申し上げます。また、全国各地からはるばる御来校され、御臨席を賜りました父兄の皆様方に対しましても、心からお礼を申し上げますと同時に、御子弟の栄えある入校を衷心よりお祝い申し上げます次第であります。

さて我が防衛大学校の教育目的は、防衛庁設置法に明示されてありますとおり、「幹部自衛官となるべきものを教育訓練する」ことにあります。本科入校の新生諸君、難関を見事に突破されての本日の御入校をまず心からお祝い申し上げますと同時に、自ら志を立て、国家民族の運命の根幹にかかわる防衛任務達成のため、身を挺してこれに当たらんと
の気概を秘めて入校を決意されたことに対し、心から敬意を表するもの



第4代学校長 土田 國保

注(1) 染谷 誠

注(2) 佐々淳行

注(3) 登張史郎

注(4) 穂積^{としひこ}鈺彦

注(5) 生田目 修

注(6) 富澤松司

注(7) 小佐野皆吉

であります。

入校に当たり、学校長として次の三点を特に諸君に要望いたします。

まず第一に、諸君は将来幹部自衛官となるべき大学生として「真^{まこと}の紳士」にして「真^{まこと}の武人」たるべく、自らの人間修行に心がけていただきたいということであります。

防衛大学校には、先輩の学生達の手でつくられた「学生綱領」というものがありまして、「廉恥」「真勇」「礼節」をモットーとしていますが、その綱領目的達成のため、学生間の自主的な切磋琢磨を最も大切にしているのであります。その意味で、本校は他の一般大学と全く趣を異にし、全学生の団体生活、団体行動、団体訓練を基幹となし、特に第1学年にあっては、厳正な規律の下、形から入って魂を入れるいわゆる躰教育からはじめるのであります。

どうか諸君は、まず素直な気持でこの団体生活に飛び込み、その雰囲気になじみ、指導教官や上級生の指導の下、習^{ならいしょう}性となる立派な躰をまず身につけられたいのであります。

とはいえ、4年間の防大生活が他律的強制の下にあって、各自の自主性そして個性を失うものであっては絶対になりません。最初は他律的な躰教育も、ゆくゆくは自律的・自主的な日常生活の中にとけ込み、その間に己れが個性を磨いてゆくことをもって理想とすべきであります。何と申しましても、一人歩きのできる部隊指揮官たるに最も必要なのは、自制の心と自主積極の精神なのであります。いずれ諸君は、追い追い指導される側から指導する側に、率先垂範を要求される側に立つのであります。どうか諸君一人一人が、この4年間の小原台生活を通じて、見事な人間的成長を遂げ、個性豊かにして随所にリーダーシップを発揮できる若人として、自らを錬成し抜くことを切に期待するものであります。

第二に、諸君は大学生として学問の研鑽に本腰を入れていただきたいということであります。

先進各国における現下の士官候補生教育は、一般大学生と同等もしくはそれ以上の知的水準と学力をその前提としているのでありまして、我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系、人文社会学系教育を主たる学業の内容としているのであります。防衛大学校規則第5条にいわゆる「広い視野を開き、科学的思考力を養う」とは正にこれを指すのでありまして、将来有能な幹部自衛官たるには、高度の学識、学力の保持者でなければ役に立たない時代が来ていることを銘記すべきであります。

学生舎の生活が、自主積極的な行動精神に裏づけられねばならないように、教室における授業も、自習室での勉強も、畢竟これまた自啓自発の精神にまつほかはありません。優れた教授体制を擁するこの防大において、受身の中途半端な気持では、ここの4年間はあまりにも貴重すぎるのであります。どうか諸君は、今後各教官方の御指導に従って誠実に大学生としての学問研鑽に努め、以て将来に開花結実すべき輝かしい資質を磨かれんことを切望いたします。

第三に、諸君はどうか必ず何等かの校友会活動に参加して、心身を鍛え、また豊かな情操を養っていただきたいのであります。

今や1万人を超える卒業生から在校時代の懐しい思い出が語られるとき、それは期せずして校友会活動、クラブ活動の思い出なのであります。時あたかも20歳前後の青年期、心身の鍛練には絶好の機会であるとともに、将来幹部自衛官として、いかなる状況下にあっても、最後まで粘り抜けるだけの気力・体力を培うべき大切な時期でもあります。

どうかこの小原台で流した汗が、省みて一生忘れえぬ楽しい思い出となりますよう、そしてまた、生涯を通じての良き師、良き先輩後輩、良き同期生のきずなを結ぶ機会となりますよう心から祈るものであります。

次に、理工学研究科に入学された諸君に申し上げます。諸君はこのたび、特に選ばれて本校の研究科において、2年の間、高度な科学技術の修得に専念せられる機会を与えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

諸君の多くは、現在まで自衛隊の各種部隊、艦船等にあって日常の業務に忙殺されておられたことと思います。恐らくは、落ち着いて机に向う時間も決して多くはなかったことであらうでしょう。本研究科は、諸君がかつて各大学において履修されたことを思い出しながら、時間的余裕を持って高度な科学技術の研鑽の途に入られる絶好の機会でありますとともに、幹部自衛官としての諸君の更なる発展にとっての基礎を培う意義を持つものであります。

ひるがえって現在世界各国は、防衛力強化のため、それぞれ科学技術の粋をつくしておりますが、我が国の水準は遺憾ながらいまだに立ち遅れの状態にあります。しかして1980年代の我が国防衛の最大課題の一つは、正に技術開発力の強化にほかなりません。本研究科の充実のために、私どもは今後更に力をつくす必要を痛感しているのでありますが、諸君の精進努力を大いに期待するものであります。

頃は桜花爛漫の春4月、陽光は燦として中天に輝き、青き海原は静かに眼下にひろがるこの小原台上にあって、祖国防衛の尊き任務達成のため、第一歩を踏み出さんとする諸君の今後の健闘を心から祈りつつ、式辞を終るものであります。